

令和5年度 第2回岡崎市地域福祉計画推進委員会
会議録

日 時 令和6年3月4日（月）13:30～16:00
場 所 岡崎市社会福祉センター 2階多目的室
出席者 長岩委員長、大堀委員、大河内委員、佐藤委員、長坂（宏）委員、林委員、加賀委員、中根委員、鈴木（正）委員、杉山委員、檀委員、坂口委員、山下委員
欠席者 野尻委員、長坂（秀）委員、鈴木（壽）委員、安田委員
事務局 福祉部：阿部田部長
ふくし相談課：齊藤課長、寺西副課長、永田係長、早川主査、浅野主査
社会福祉協議会：本間事務局長、井戸田課長、草次係長、足立
傍聴者 なし

1 開会

2 議事

議事1-岡崎市災害時避難行動要支援者の支援について

（事務局） 説明

○主な意見

（委員長） かつては忘れたころに来ていた災害が忘れる間もなく来ているので大事な取り組みかと思います。岡崎市はかなり早く取り組まれていて、最初のページの下に2ページ約9,100人とあるがこれは14,000人のうちの名簿同意をした方ということでしょうか。

（事務局） はい。

（委員長） 一定の割合は同意されてないということでしょうか。

（事務局） 高齢者は9割近く登録されているが、障がい者のうちでペースメーカーなど普段生活に影響がなく若い方は登録に関心が少ないようです。

（委 員） 9,100人の情報は普段は見れず、災害時は情報開示を可とした人でしょうか。

（事務局） 避難に必要ながあれば災害にかかわらず見ることができます。

（委 員） 行政のみでしょうか、だれでも見れるのでしょうか。

（事務局） 総代、民生委員がすべて対応しては難しいので実際行う隣家の方など地域の実情に応じて可としています

（委 員） データ化していますか、それとも紙で渡していますか。

（事務局） 紙で渡していますが、データ化してる地域もあると思います。

（委 員） データ化できるのであれば、閲覧可能な範囲を制限できるので、一律に知られたくない人もいると思うので、データ化できるとい

- いのではないでしょうか。
- (事務局) 実際開示したくないという方もいるので、父母の会と話をすると若い方は意外とオープンですが、災害時に必要となりますので個人情報担保したうえで情報共有できる必要があると思います。庁内のDX部局と連携し、デジタル化出来たらと思っています。
- (委員長) 登録時に丁寧に説明していると思いますが、普段から活用して災害に備えるという面もあると思います。
- (委員) 老人クラブの会員の生活については、把握しているところですが、任意の団体なので、よく言われるのが強制的に入ってもらって、平時は何ともないが、災害時は総代・民生委員は町のことを考えないといけないが、行政から加入してもらうように促すことは難しいでしょうか。
- (事務局) 行政でも老人クラブの推進を行っているところです。災害時に情報提供できる機会にもなりますので、老人クラブへの加入も勧めていければと思っています。
- (委員) 一番困っているのが、会員を募集しているがどんどん減っていくので、助けるための体力を維持してお互いに助けていくことが理想ですが、60歳を過ぎても働いている方もいるし、行政でもっとPRをしていただきどういった助けがあるかなど伝えていただきたいです。
- (委員) 障がい者団体も子供が大変な親は真剣に考えているが、当事者はなかなか言っても届かないです。災害時には、近所付き合いが大切になるから届け出を出しておくべきだが、伊勢湾台風を知っている人が少ないので大きい災害を知らず他所事のように感じていることもあります。届けていれば助けてくれるのだから届け出すように言っています。
- (委員長) 課題がありますが、未登録者への対応はどういった方が未登録になっているのでしょうか。
- (事務局) 手帳を持っていなかったり、本人の意思で登録していないです。
- (委員) 皆様の意見で心当たりのあることばかりですが、私も高齢者の多い地区に住んでいて高齢化に対してどうするのかというところで、それぞれの団体は一生懸命やっていますが、新聞では地域共生社会などいわれているが、単独の組織としてではなく、連帯してやっていくと助かる部分もあるのではと思っています。実際の取り組み事例とかあれば教えていただけると助かります。
- (事務局) それぞれの団体で取り組みを行っていますが、やはり点ではなく面での支援を行うためには、行政・社協なども一緒に地域に飛び込む必要があると思います。
- (委員長) 名張市はへき地ですが、事業が重複する団体は地域地域で集まって話し合い、行政も入って合理的に街づくりを行っています。

- (委 員) 避難行動要支援者の名簿自体は、総代等を送ってくるが総代の理解がないと何事も進まないです。総代の理解が重要なので総代会などで、高齢者の問題などを共有してもらいたいです。福祉委員会として話をしても話がまとまらないです。
- (委 員) ある学区の総代はほとんど1年で交代してしまう。町内のことは入っていくことができません。町内会費を払わないなどもあります。災害時は避難所を運営するのに大変で、要支援者まで手は回らないです。
- (委 員) 総代から老人クラブに声掛けがあれば、老人クラブで知っていることがあれば動くこともできるが、入っていないと把握できない。それぞれの団体が役割を果たさないと総代ですべて見るのは無理です。
- (委 員) 時代が違うので人々の考えもあって、年齢が下がると考え方が違うのでそういった考えについても知っておいてほしいです。
- (委 員) 具体的には、隣も知らず関りがないので、その中で地域を作っていくのは大変だなと思います。
- (委 員) 12ページ目の5、6、7番の避難所で過ごすことが難しい人達について、福祉避難所の岡崎市の整備はどの程度進んでいますか。
- (事務局) 福祉避難所について、規定が改正され指定福祉避難所と公に周知を行っていくことになっています。岡崎市では協定を結んだ社会福祉法人や福祉の村といったところと協定を結んでいます。近年の災害では小学校等でなく近くにあるデイサービスや公民館などに避難するので、各事業所の理解を得ながら近くの避難するところとして整備してければと考えており、指定避難所は現在はありません。
- (委 員) 災害時に向け総代会などを取り込み、認定情報は市が持っていると思うので、各会の継続については趣旨が異なるので、いざというときに行政が情報を開示すればいいと思うので、どこかにお願いしなくていいのではと思います。
- (委 員) 6月は私の病院も土砂崩れなどで3人宿泊した経験があります。その時に大変だったのがどの道が使えるかが早く分かればと思うので、安否確認の方法と確認した情報をどうするか普段から訓練しないといけません。身近な風水害の訓練を頻繁にやれば団体に頼らずとも若い人もやるようになるのではと思います。
- (事務局) 災害時の情報発信については検討していきたいと思います。災害は様々なケースがあります。昔は南海トラフを想定していましたが、最近は水害が多いので様々な規模に応じてどう対応していくかというのは防災の課題と考えています。この制度は、命を守る行動なので、避難ができれば要支援者ではないので、安全確実に地域を踏まえやっていきたいと思っています。総代の話もあ

りますが、岡崎市は他に比べ町内会加入率が高いことが地域資源であると思っていますが、坂口委員のいわれるように社会構造も変わってきています。名張市の例もありましたが、地域自治自体も変わっているの、そのまま岡崎市に適応させるのも難しいが、岡崎市の長所を活かしながらやっていければと思います。

(委員長) どの災害地域でも行政に助けてもらったって方は一握りで、地域に助けてもらったという人のほうが圧倒的に多いのでどれだけ臨場感を持った避難訓練ができるか、どれだけ整合性を持った情報になっているのか地道にやっていくしかないと思います。

議事 2-生活困窮者支援等のための地域づくり事業について

(事務局) 説明

○主な意見

(委員長) 5ページにあるように評価が必要ということですが、数字で回数が乗っていて見劣りするものではありませんが、いかがでしょうか。

(委員) 地域の協働体を作るところでは行政に助けをもらい、年々生活困窮の支援がやりやすくなっています。毎年同じものを継続して行うのが大切だと思っています。最後に困窮者に対するものだったのか、ミソ端会議では地域の連携を作るためにいいですが、私の学区では生活困窮者の支援というところではないかなと思います。

(委員長) ミソ端会議はなかなか生活困窮者の支援にはなっていないのかなというところです。

(委員) OKフードドライブの連絡があれば、取りに行ったり、取りに行ってもらったりしています。民生委員から相談があると行政から聞かれたりする。OKフードドライブの広報があると全く関係のない人が参加したりするのはどうなのかと思います。

(委員長) 運営の中で生活困窮者の支援につながっているのか検証も必要ではないかという意見だったかと思います。

(委員) こういうのはいつも自分が取りにいけないといけない、取りに行くのが恥ずかしいといった方にはどのように届けているのかと思いました。

(事務局) 取りに出来ない方については、配布とは別に民生委員さんに届けてもらったり、必要に応じて行政や自立支援事業で届くようにしているが、今後もやり方を検討していきたい。真に困窮している方に届いているのかということは常に議論されますが、困窮者のイメージとして、衣服の状態などイメージがあるかもしれませんが、一般に働いていても収支で困窮している方もいます。もらえるものを貰う人も一定数いることは承知していますが、真に困っている人だけにしてしまうと来づらくなってしまふのではと思っ

てハードルを低くしています。運営の方法については常に考えて
るところです。

(委員長) 運営についてはまた考えてもらえればと思います。

報告 1-令和 5 年度地域福祉計画事業検討部会について

(事務局) 説明

(委員長) 野尻先生のまとめの「日常ではその思いは眠っていて地域課題を
どう訴えかけていくかが重要」とありますが、負担のない活動は
ありませんので、それをどうとらえていくかというところかと思
います。

その他

(委 員) ごちゃまぜ食堂に行ってきました。岡崎市の所々にこういった施
設があればいいなと思いました。

(事務局) 第 1 回の委員会で参加支援事業の実施回数 3 回について回答でき
ませんでしたので、今回報告させていただきます。1 ケース一人
ずつになり、生活困窮者の就労準備支援事業の中でデイへの同行、
病院への同行と軽作業、軽作業のご案内となります。軽作業の内
容は岡崎市のごみ袋配布のための分別、OKフードドライブの参加、
岡崎市役所での物販などがあります。

(事務局) これをもちまして令和 5 年度第 2 回岡崎市地域福祉計画推進委員
会を閉会いたします。

以上